
手紙

広瀬修二

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手紙

【Nコード】

N1381S

【作者名】

広瀬修二

【あらすじ】

かつて私がN市に旅をしてその帰りと
のちに運命的な出会いをしたY子に会いに再びN市を尋ね
そのときに乗った寝台特急の中で2回とも不思議な体験をする

そして妻が持ち込んだ一冊のコミックがその謎をといた。
これは実在する漫画家に書い手紙です。

前略

私は現在M県N市に住む50歳の男性です。

私が山本まゆり先生の作品と出会ったのは、

私の妻が数冊のコミックを家に持ち込んだ事からでした。

その中に「魔百合の恐怖報告」があり、

少しばかりの霊体験のあった私は寺尾玲子という

キャラクターに魅せられてしまい、

近くの書店で全冊取り寄せて読み始めました。

そして「現世の使命」の巻で、

「生と死の遭遇」を読みだした時のことです。

イタリアに行くまゆり先生と玲子さんが、

飛行機の中で木村さんという女性と出会い、

一緒に旅をして木村さんの前世だというミイラには会わずに、

パレルモから離れるとき木村さんが泣き出して

涙が止まらなくなるのを見て、

「あ！！私と同じだ、そうか前世だったのか」そう思いました。

三重県で生れた私は若い頃から、

ひとり旅が好きでバイクで北海道へ行ったり、

歩いて四国八十八箇所巡りをしたりしていました。

そんな旅のひとつM県に行ったときの事です。

旅の終わりにN市の小京都と呼ばれる城下町を訪れて
そのあと帰路につきM駅から寝台特急に乗り
名古屋に向いました。

2月という時期のせいか4人掛けの席には
サラリーマン風の男性と私の二人だけでした。

しばらくすると駅で買った週刊誌を読み終えて
手持ち無沙汰になっていると、

前の席の男性が週刊誌の交換を持ちかけてきました。

その週刊誌を読み始めたときのことです涙がボロボロと
流れ出して止まらなくなっていました。

突然のことでもわけもわからず

（前後に泣き出す理由がまったく無かったので）
人前で泣いている自分が恥ずかしくなり
かぶっていたハンティング帽を深くかぶり直しました。

夕方になって席を寝台に組み替え

ベッドに横になっても涙は止まりません
それでも名古屋に着く頃にはおさまり、
あれはなんだったのかと不思議でした。

それから数年がたち当時故郷の三重県から
私は愛知県に働きに出て、

その配属された職場でY子という女性と出会いました。

ビニールで仕切られた場所に二人だけで
メーターの部品を検査をするという仕事でした。

妙に気が合いすぐ打ちとけてなんでも話し合うようになり、私が配属された1月13日がY子の誕生日だったことや私が一度訪れたあのM県のN市の出身で

前年の12月で退職するつもりだったのが

上司に強く説得されて3月まで延期したことを知りました。

楽しかった二ヶ月間はあっというまにすぎて

別れの日がやって来ました。

その日、Y子は私のそばから離れず

「帰りたくない」と言い出しました。

私は「手紙を書くから電話もするから」と言っ

かつて四国八十八箇所巡りのときにつくった

納経帳をお守りとして渡しました。

Y子との文通が2年間続いたころ

「いやだったんだけど親にむりやり進められて

お見合いをしました、だまっていたけどこれが2回目です」

という手紙が届き「私を待っているんだ」と思い込んだ私は

Y子との結婚を決意しました。

「そちらに遊びに行くよ」と言う手紙を出しておいて、

名古屋駅から寝台特急に乗りN市に向かいました。

出発してすぐ横になったのですが、なかなか寝つかれず

私は深夜ベッドの上に座っていました。

その時でした突然「N市に骨をうずめなさい」と言う声が部屋中に響きわたりました。

初めての体験に驚いたのですが、
Y子と結婚出来るのならN市に住んでもいいという
覚悟だったのでその願望が
幻聴を引き出したのだらうとその時は思いました。

N市に着くとY子は仕事を2日間休んで喜んで迎えてくれました。

2日目の最後の日に、N市の郊外にある喫茶店に寄り
そこで思い切ってプロポーズしました。

それを聞くとY子は黙ってしまい、
しばらくしてから「困る・・・」とつぶやきました。

納得出来ない私は、

「ゆっくり話しが出来る場所に行きたい」と告げると
Y子は私を城跡に連れて行き堀のそばの道路が
少し広くなっている所に車を止めました。

そこでゆっくり話を聞くと、
結婚までは考えていなかったことや
私がN市に住んでもいいと言ったことで、
私の人生をかえてしまうことに怖くなり、
「結婚はできない」と泣きながら言いました。

それでも諦め切れない私はホテルのすぐそばのアパートを借りて
その後もストーリーカーのようにつきまといました。

2カ月たった頃彼女から小包が届き、開けてみると2年前に
お守りとして渡した四国八十八箇所の納経帳でした。

それでY子との事は諦めがついたのですが、
その後もN市に住み続け1年がたった頃です。

そろそろ三重県に帰ろうかなと思い始めたのですが、
行きつけのお好み焼き屋のマスターに、

「店を大きく広げるのでオープンの間、手伝ってくれないか」
と頼み込まれ、

オープンだけならという約束でひきうけました。

もともと学生に人気があった店で口コミでうわさが広まり、
オープン当日は殺人的な忙しさでした。

その忙しさが2日、3日と続くと、
以前から働いていた従業員の男の子が逃げ出してしまいました。

ママさんに泣きつかれてしかたなく従業員として働くことになり、
2年が過ぎた頃マスターから
「2号店を出すので店長をやってくれ」と頼まれ、
自分の力を試してみたいと思い引き受けました。

そのオープン当日のことです、
早めに店に出た私は、シャッターを開け、
シャッター棒をなおそうと店の角を曲がると
なんとY子とばったりはちあわせをしたのです。

私も驚いたのですが、
Y子のもっと驚いたみたいで走って逃げて行きました。

あとで分かったのですがY子はすでに結婚していて、

なんと私の店の隣にある住宅に住んでいて、
しかも店の裏にある電子部品を作る
工場で働いていたのでした。

その日は生まれたばかりの赤ちゃんを
近くにある保育所に預けに行った帰りだったのです。

その後、Y子も子供が大きくなってから
家族でお好み焼きを食べに来るようになりました。

店がオープンしてから2ヶ月ぐらい立った頃、
休みの日にマスターが突然私のアパートにあらわれて
今からお見合いをすると言われ、
近くの喫茶店に連れていかれました。

その日は私がN市に来るきっかけとなった
Y子の誕生日で私と初めて出会ったあの1月13日でした。

しかも私の三重県の実家の母の手術の日で
朝からずっと手術の成功を祈っていたときでした。

お見合いした現在の妻とはお互い気が合い、
付き合い始めて一年で婚約し、そのまた1年後には
結婚することになりました。

私達の婚約後に私の妹の結婚式が三重県であり、
しかも同じ年に妻の弟の結婚式があり、
お互いに婚約者として親族に紹介していたので、
私達の結婚式は友人知人が集まって
手作りの結婚式をすることになり、

マスターと友人が中心になって式の手配をしてくれることになりました。

そこで式場に決まったのが、なんと私がY子にプロポーズしてふられたあの喫茶店でした。

マスターと友人にはそのことは話していなかったのが、本当に驚きました。

その他にも、

妻が家具を求めて車で一時間かかるM市内の家具屋に出かけた時のこと、

大きな家具屋の売り場担当の店員さんと会話をしてるうちに妻のお母さんと同級生だった事がわかり

その妻のお母さんはすでに亡くなっていて、

結婚する娘の家具選びのために引き合わせたのだらうと同級生の方は言っていたそうです。

まるでドラマのようなことが次々と起こり、

私は長い間不思議に思っていました。

それがまゆり先生の作品と出会い、

前世というキーワードですべてが納得出来たのです。

そしてすぐ私は1つの夢をみました。

それは歩いている一人の男で、

あまりにもみすばらしい姿だったのですが

刀を差していたので、

なんとか侍だと見分けることが出来ました。

しかもそこはN市の城跡の堀の近くで、
Y子と訪れて車を止めたあの場所でした。

後年、妻と息子と3人で城跡に出かけたときの事でした、
その見学コースに新しく開設された記念館に
立ち寄った時のことです。

そのなかで地方の小藩の下級武士が
藩校に通う姿が描かれている1枚の絵を見て驚きました。

私が夢に見た侍と同じようにみすばらしい姿で
刀を差していたのです。

やっぱりあの夢に出てきた侍は私の前世だったんだと
思いました。

長い間不思議に思っていたことが、
まゆり先生の作品と出会ったことでなぞがとけ、
感謝しております。

これからも先生の益々の御活躍を祈っていおります。

（後書き）

書いてから長いあいだダンスの奥にしまっていたのですが
このサイトであって出してみることになりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1381s/>

手紙

2011年10月8日23時28分発行